

京都府図書館等連絡協議会実務研修会（北部会場）概要

テーマ：これからの図書館の在り方

演題：これからの図書館の在り方～課題解決型サービスについて～

講師：常世田 良 氏
立命館大学 文学部 教授

会場：宮津市福祉・教育総合プラザ及び Zoom によるオンライン開催
(宮津シーサイドマート Mipple 3階 第2コミュニティルーム)

日時：令和3年11月12日（金）午後1時30分～3時45分

参加者数：19名（会場参加：5名 オンライン参加：14名）

概要：近年の公立図書館というものは、①本（小説）を貸すところ②日常生活から離れた「癒し」の空間③幼児とその母親、もしくは高齢者が多いというイメージが強くあります。しかし、図書館で本を貸すのはあくまでも“手段”であり、目的、本質は“情報の提供の場”であります。そのためには図書館同士の知的財産を共有し、“ネットワーク”の構築が重要になります。近年は、「トップダウン」型社会からすべて個人が責任を負わなければならない社会へと変化しています。その中で重要なのが、判断を行う上での「情報」です。情報は、インターネットで調べればよいと考える人が大勢いますが、ほとんどの人が考えつくようなキーワードの組み合わせは同じであり、その検索結果も同じようなものにしかありません。そしてその情報の9割は本当でも、残り1割は広告ということが多い。自分自身で考えをまとめるには体系的で高度な情報収集ができる図書館が求められる時代になると考えています。

市民に、市役所等で行われている様々な「相談窓口」の存在を知っているかと問えば、1割ほどしか手が挙がりません。高度な相談窓口があっても認知されなければ無いのと同じです。ある分野に特化した窓口では関連する問題にしか対応できませんが、図書館なら「多様な窓口」になることができます。病気、仕事、家庭などその人の「課題」は複雑であることがしばしばあり、それに対応できる、必要な情報の聞き取りと情報提供ができるのは図書館員のホスピタリティなのです。

全国のさまざまな地域の課題を解決するため、図書館では、本を集めたコーナーを作って終わるのではなく、ビジネス支援サービス、医療健康情報提供サービス、法律情報や行政支援を図書館が専門機関と協力して行うことが重要となります。また、鳥取県立図書館や千葉県浦安市立図書館など、実際に行っている図書館もあります。

また、近年は図書館でもAIやロボットの活躍が期待されており、職員の後ろをついていく図書運搬車型のロボットが開発されたり、簡易なレファレンスをAIが回答したりしています。だからこそ、人間の司書には、今後さらにホスピタリティが求められていくでしょう。

図書館ができること、やれることはまだまだあります。むしろ、これからの図書館が本当に必要な時代なのです。